

平成29年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月25日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程・学習指導	<p>①教育課程研究開発校として新科目公共の研究開発に取り組む。</p> <p>②生徒の自立心を育てるとともに、社会参加の意欲を高め、問題解決能力を身につける教育課程を編成する。</p>	<p>①35週分の授業確保のための1時間55分間の授業実施を来年に控え、スムーズな移行を心掛けるとともに、生徒・保護者・中学生への周知も徹底する。また、2年目を迎えた新科目「公共」に関する研究を更に深めていく。</p> <p>②生徒が主体的・対話的で深い学びができるような、コミュニケーションな授業の実践に努める。</p>	<p>①今より5分長くなる授業に関して、集中力を保つための具体的な方法を実践校から情報収集するとともに、各教科で研究する。</p> <p>②アクティブな授業展開に関する研究を、関係グループを中心に引き続き継続し、年間10コマ以上の研究授業を実施する。</p>	<p>①放課後の部活動や委員会活動、また会議等への影響をシミュレートし、対策を考える。</p> <p>②生徒による授業評価の項目4「生徒の授業への意欲」及び項目10「生徒同士で話し合ったり意見を発表する機会があった。」の2項目において、「ほぼ当てはまる」以上の回答が80%を超えたか。</p>	<p>①朝5分早くHRを始めるとして試行など、具体的な方策を実施するとともに、35週の授業確保の意義を生徒、保護者に丁寧に説明できた。</p> <p>②生徒による授業評価の項目10「生徒同士で話し合ったり意見を発表する機会があった。」において、数学は7割だが、それ以外の教科はほぼ8割を超えることができた。</p>	<p>①生徒にとりて始業時間が早まり、終業時間が遅れることは大きな変化であり、もっと早い時間に試行を繰り返さなければならない。</p> <p>②研究授業の在り方は、教科主体のものになりがちで、学校全体での取り組みになりえなかった。来年度は教科横断型の研究授業を実施予定。</p>	<p>①「公共」への取り組みに関しては2年目ということもあり、外部の方の講演会実施やキャリアアシズンシップの導入など前向きに取り組んでいる。3年目の集大成を期待している。55分授業の成果は今後も見守っていききたい。</p> <p>②90%近い生徒が授業マナーを守って前向きに取り組む姿勢が数字の上からでも読み取れる。是非この数値を維持してもらいたい。</p>	<p>①授業時間確保の問題は、働き方改革とのからみもあり、会議の持ち方や業務の削減とも連動しシイク良い機会であった。また、授業内容の吟味も当然必要となってくるが議論されていない。</p> <p>②複数回の研究授業を実施するとともに、ICTの効果的活用を目指したコミュニケーションな授業方法の実践など前向きな取り組みが多くみられた。今後はそれをいかに組織的なものにしていくかが課題である。</p>	<p>①55分授業実施を目前に控え、新たな授業計画を全教科で策定する一方、授業改善＝授業への意欲的な取り組みの喚起、という図式を改めて全職員で共通認識し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p> <p>②来年度は「何ができるようになるか」を明確にした授業作りを学校の目標に掲げ、全教員参加の全体授業研究会を秋に計画し、全職員が生徒の学びに注目する機会を設ける。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①キャリア教育の視点から、生徒の規範意識の醸成に引き続き取り組む。</p> <p>②支援の必要な生徒に対して教育相談体制を確立する。</p> <p>③自己肯定感の向上に繋がる生徒支援方法を模索し、実現化する。</p>	<p>①チャイム前着席や携帯電話等電子機器の使用制限など、更なる規範意識の向上と生徒のモラル確立に取り組む。</p> <p>②職員間で生徒の情報交換を一層密にし、支援を必要とする生徒により丁寧に対応する体制を作る。</p>	<p>①ここ2年ほどの間に微増してきている遅刻者数の減少を、今年度の学校重点目標として全生徒に周知し、その実現に向けて全職員で取り組む。</p> <p>②様々な課題を抱えた生徒に対して、保護者と連携しつつ、どれだけ丁寧に指導をしていけるか。</p>	<p>①前年度に比べ遅刻者数及び遅刻指導数を10%以上減らすことができたか。</p> <p>②SCや外部の相談機関との連携がどれだけ取れるか、また、生徒の日頃の状況をどれだけ深く観察して素早く対応していけるか、数値には表せないが、大切に取り組んでいきたい点である。</p> <p>③最近停滞している部活動加入率が前年を10%上回ったか。</p>	<p>①「日本一遅刻の少ない高校を本気で目指す。」を合言葉に、チャイム前着席指導も含め、学校全体で取り組み、1年生を中心に遅刻者数を1割程度減少させた。</p> <p>②部活動加入率は残念ながら伸ばすことはできなかった。次年度の課題である。</p>	<p>①なぜ遅刻することがいけないのか、その意義をしっかりと生徒に浸透させることに重点を置き、単に規則を守るようにという作業にならないよう徹底する。</p> <p>②部活動への関心をどう喚起していくべきか、再度検討する。</p>	<p>①3つの項目すべてが、本校の生徒たちに不足している自己肯定感や達成感を得ることに繋がる。丁寧に、また根気強く、生徒たちに呼びかけていくしかない。</p>	<p>①本校の学校経営の根幹になる規範意識の醸成のためには、職員の一致した指導体制を再度確認し、情報交換を密にする必要がある。</p> <p>②HRでの声かけ、授業前の声かけ、といった地道な指導が欠かせない。</p>	<p>①入学から卒業まですべてがキャリア教育である、という本校の理念を継続していくために、新しい視点からの規範意識の醸成に取り組む。</p> <p>②支援体制を更に充実させるために、教育コーディネーターやSC,SSW等からの助言を受けつつ、校内の体制を再度見直していく。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月25日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①在学中のすべての教育活動を、キャリア教育の視点で展開する。 ②生徒全員が自分の希望する進路先に進めるよう、入学時から計画的・継続的に指導する。	①生徒に具体的な目標を持たせ自己肯定感を高めることによって、自分の将来の仕事を自ら選択できるような支援方法を確立する。	①キャリア支援の目標として、生徒の卒業後の進路に関して、フリーターはゼロ、また未定の者を限りなくゼロに近づける。 ②キャリア能力育成のためにはコミュニケーション・スキル向上が不可欠である。そのため面接指導のより一層の充実を図る。	①3年生の進路を、本人の希望通り決定できたか。また、未定の者ゼロの目標が達成できたか。 ②キャリア・ガイダンス、三者面談、推薦説明会などの実施状況並びにその内容の充実度が確実にアップしているか。	①就職は17名全員の就職先を決定できた。(うち公務員1名)また、純粋なフリーターは一人も出なかった。丁寧な指導の結果、進路先をしっかりと確保できた。 ②一般大学入試で早稲田大の合格者が出るなど、あきらめない指導が成果を上げてきている。	①本校のキャリア指導の理念である「フリーターを出さない。」を今後も継続していく。 ②推薦に頼らず、自力での進学を目指そう、という呼びかけを今後も継続する。進路決定率100%の目標は変わらない。(浪人は除く)	①②本校が長年に渡って取り組んできた「キャリア教育」の理念を継続し、個々の生徒に対する丁寧な指導がしっかり行われている。今後も生徒全員の進路先決定を目標に、取り組んでもらいたい。	①昨年に続き一般入試での六大学合格など、顕著な成績を残す生徒がいたことは収穫であった。また、安易に専門学校進学を目指す生徒も減っている。自分の将来をしっかりと考えるよう指導してきた成果が出ている。	①キャリア教育の継続は、本校の変わらないテーマなので、キャリア教育実践プログラムをより具体化し、キャリアシチズンシップ教育を盛り込んだ内容で検証を進めていく。
4 地域等との協働	①コミュニケーションを新たな展開することで、更なる地域との連携体制を推進する。 ②小中高の縦の連携を深め、地域に根差した教育を展開する。	①学校説明会や文化祭の内容を更に充実させることで、外部からの来校者数を増やす。 ②三ツ境養護学校や近隣小中学校に職員を派遣し、他校種との交流を通して連携を図る。	①学校説明会や文化祭の充実、広報活動の活性化を通して、中学生が興味を持ってくれる学校作りを心掛ける。 ②コミュニティ・スクール立ち上げのための準備をしつつ、地域との連携を、防災訓練や通学路指導を通してより深めていく。	①HPの更なる充実を図り、閲覧者数の前年度10%アップを目指す。 ②PTAと連携した校内整備活動(ペンキ塗りや施策の森清掃活動)への生徒参加状況が例年を10%以上上回ったか。また、三ツ境養護分教室との交流行事が少しでも増えたかどうか。	①HPの充実を図り、説明会の参加者が10%近くアップした。 ②三ツ境養護分教室との部活交流、授業観察等を昨年以上に実施できた。また、授業のバッチング等のトラブルは月間行事予定に組み込むことで半減した。	①説明会や文化祭の来校人数は増えていくが、実際の入学志願者が相変わらず伸び悩んでいる。適正規模のクラス数実現に向けて再度申し入れたい。	①②HPや説明会など広報活動をより活性化し、安全安心に勉学できる今の瀬谷西高校の姿をアピールしてもらいたい。そのためには、地域との交流等を通じた協力依頼も考慮したほうがいい。コミュニティ・スクールの基盤を作ってほしい。	①学校広報活動の大切さは、学校の魅力を改めて職員・生徒が認識する上でも重要である。生徒減の時代に当たって、「行ってみたい高校」像の確立を図りたい。 ②インクルーシブ教育を見据えて分教室並びに本校との交流も更に拡大していく。	①コミュニティ・スクールの導入に向けて校内組織を立ち上げる。これからの県立高校のあり方は、小中高を含めた地域力の活用や、外部機関との交流が不可欠になっていく。部活指導者の外部招聘等将来を見越した学校経営が求められる。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月25日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5 学校管理・学校運営	<p>①職員の共通認識を深め、一体となった学校経営を推進する。</p> <p>②何よりも安全安心に基づく、信頼される学校作りに専念する。</p>	<p>①緊急時の生徒・保護者との連絡体制を整備する。</p> <p>②事故不祥事防止に向けて改めて職員の意識の啓発に努める。</p> <p>③創立40周年事業として生徒に還元できる設備備品の充実を図る。</p>	<p>①40年目を迎え、老朽化の進んだ校舎設備の再点検を行い、安全な学習環境を維持する。</p> <p>②40周年事業として、特に体育館関係の備品の修理、購入を適正に実施する。</p>	<p>①事故防止会議が適切に毎月実行でき、事故不祥事がゼロ件であったか。</p> <p>②40周年事業として適正に予算の執行ができたか。(予算の誤差5%以内)</p>	<p>①事故防止会議を毎月確実に開催した結果事故不祥事は0件であった。</p> <p>②10月28日に校内で創立40周年記念式典を無事開催できた。その際の経費は予算範囲内に適切に収まった。</p>	<p>①防災の視点と働き方改革の2点を重視し、学校経営を再度見直す必要がある。</p> <p>②生徒の使い勝手と学校広報の視点から、40周年で備品の購入と修理ができた。</p>	<p>①学校と家庭・地域が一体となって学校や周辺の整備に取り組んでいたのは評価できる。</p> <p>②40周年と言う節目の年なので、改めて安全・安心な学校施設という観点で、地域と連携した防災訓練の実施や老朽化対策、トイレを含めた環境改善に目を向けてほしい。</p>	<p>①学校として危機管理体制の意識の啓発に努めてきたが、事故防止も含め、より一層緊張感のある職場を目指す必要がある。</p> <p>②懸案であった災害図上訓練(DIG)を生徒会生徒を中心に初めて実施できた。</p>	<p>①県のまなびやによるトイレ施設の改修の早期実現を待ちつつ、教育環境の整備に引き続き取り組んでいく。</p> <p>②東日本大震災についての教訓を生徒に啓発し続けることで、防災教育の更なる充実を図る。</p>